

ペルー 2025年産ハスアボカドの輸出見通しを下方修正

[FreshPlaza](#) 2025年6月3日

ペルーのハスアボカド生産者輸出業者協会(ProHass)は、2025年シーズンの輸出見通しを3月の予測から20%削減すると発表した。ProHassのホセ・アントニオ・カストロ会長の声明によると、新しい出荷予測は当初の予想よりも少ない65万5千トンである。

出荷予測の下方修正にもかかわらず、前年比30%の増収が予測されることから、このセクターは引き続き楽観的である。ProHassのマネージャーであるアルトゥーロ・メディーナ氏は、この出荷予測の削減は生産量に対するより現実的な見方を反映しているとして、「3月の成長予測は37%増であったが、現在は30%の成長を目指している。低くなったとはいえ、それでも大幅な増加である」と述べた。

ProHassは、この増加は慎重に分析する必要があるとしている。

メディーナ氏は、「今シーズンの30%の成長は非常に前向きに聞こえるかも知れないが、これは2024年の実績をベースに計算されたものであり、同年は2023年の冬と春の温暖な天候によって、特にハスアボカドの主要な生産者がいる北部海岸地域で生産性が深刻な影響を受けた非典型的な年であることを頭に入れておく必要がある。これらの見通しを2023年のようなより代表的な年と比較すると、成長率ははるかに低い約17%と推定される。したがって、このセクターのパフォーマンスをより正確に読み取るためには、こうした文脈を念頭に置くことが重要である」と語った。

ヨーロッパ市場は依然としてペルー産アボカドの主な輸出先であり、同市場向けの輸出量は24%増加して総輸出量の42%を占めるものと予測されている。米国向けの輸出量は、10%の関税とより高い輸送費用にもかかわらず、2024年と比較して75%増加し、総輸出量の18%を占めると予測されている。

メディーナ氏は、物流上の困難や予測の下方修正にもかかわらず、業務効率の高さと市場の多様化のおかげで拡大を続けているこのセクターの強さを強調した。同氏は、「生産者、輸出業者と関係当局の共同の取組みが競争力を維持する鍵となっている」と述べた。

ProHassが収集する情報は、ペルーの主要な輸出業者からのデータに基づいている。メディーナ氏は、同協会は輸出量だけでなく、シーズン全体の予測に関するデータも収集していると述べ、「我々は現在、輸出業者に対し、国際市場の価格に直接影響を与える果実のサイズに関する情報を共有するよう要請している」と語った。

このセクターが直面している困難についてメディーナ氏は、適切なサイズの果実を輸出することの重要性を指摘し、「海外では中玉が最も需要がある。大玉や小玉が大量に輸出されると、価格は下がる傾向がある」と述べた。

ProHassは、ペルーの輸出の持続可能性を保証するため、引き続き市場を監視し、戦略を調整する。メディーナ氏によると、作物中のカドミウムに関連する問題等の他の困難に取り組む上で、農業省の支援が不可欠なものとなっている。

執筆者: ダイアナ・サジャミ